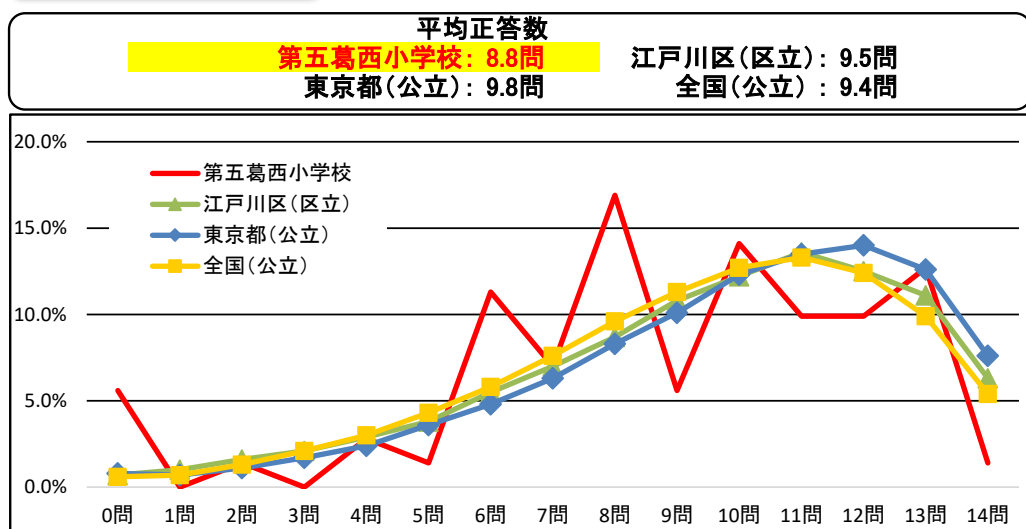
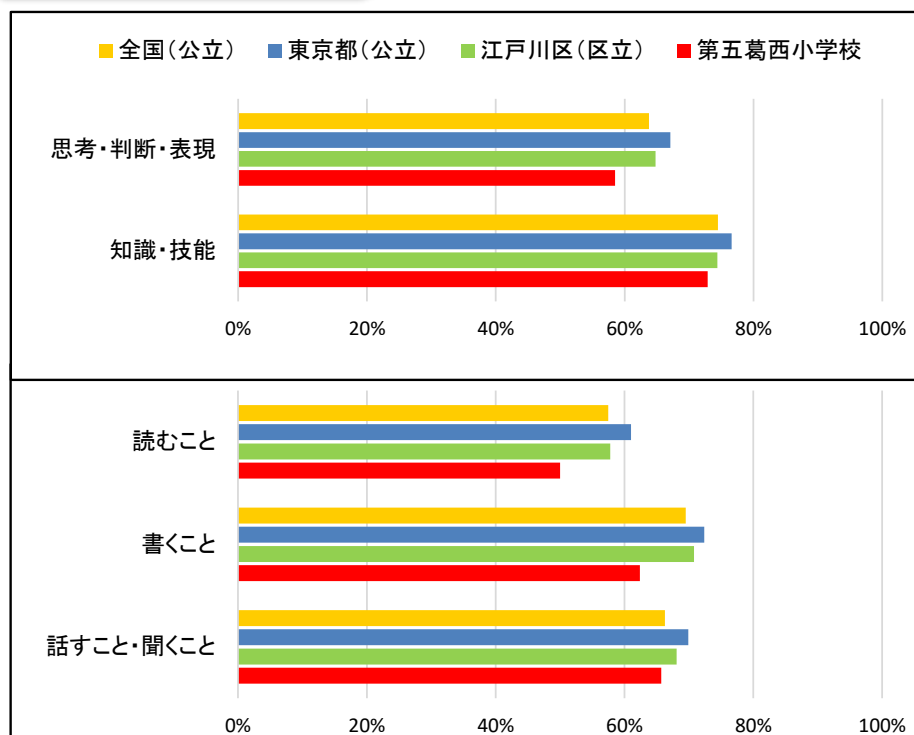


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立第五葛西小学校

正答数分布



「領域別」の結果

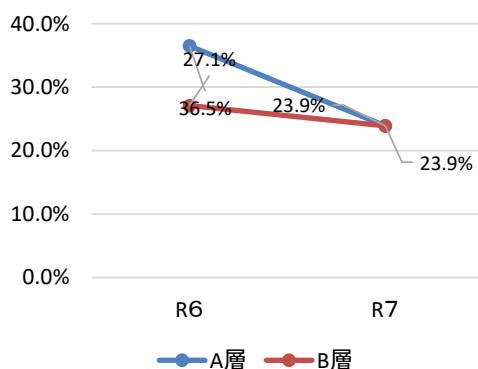


四分位における割合（都全体の四分位による）

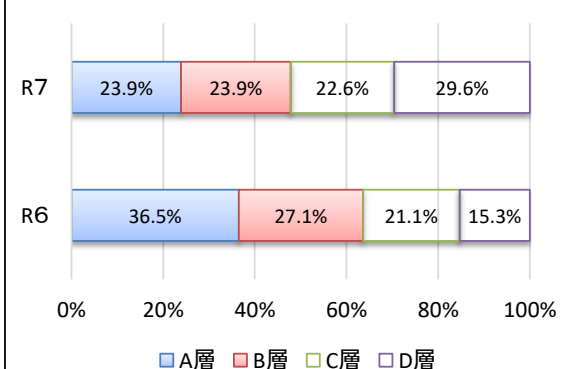
| 国語 | 上位 ← 下位 | | | |
|----------|--------------|--------------|------------|------------|
| | A層 12～14問 | B層 10～11問 | C層 8～9問 | D層 0～7問 |
| 第五葛西小学校 | 23.9% | 23.9% | 22.6% | 29.6% |
| 江戸川区(区立) | 30.0% | 25.8% | 19.5% | 24.7% |
| 東京都(公立) | 34.4% | 25.8% | 18.4% | 21.4% |
| 全国(公立) | 27.7% | 26.0% | 20.9% | 25.4% |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

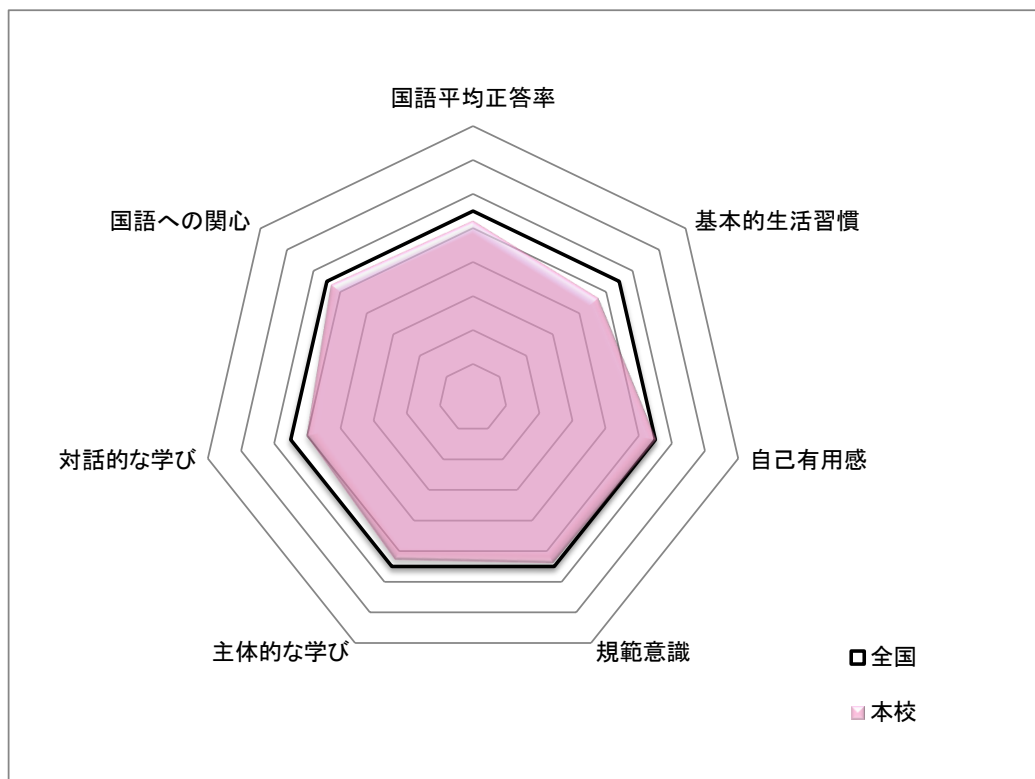
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

・A層の割合は昨年度35.56%から本年度23.9%へと12.66ポイントの大幅な低下が見られた。B層についても、昨年度27.1%から本年度23.9%へと3.2ポイントの減少が確認された。また、全国平均と比較すると、A層は全国に27.7%に対して本校は23.9%、B層は全国26.0%に対して本校は23.9%となっており、いずれの層も全国平均を下回る結果となった。これらの結果から、基礎的な読み取りや記述力に課題が生じていることがうかがえ、日々の授業改善や学習習慣の定着に向けた取り組みが求められる。

・取組内容については、単元ごとの振り返りテストや家庭学習を活用し、読み・書きの基本技能を繰り返し定着させる学習を継続して行っている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・授業力向上委員会を中心に授業改善の取組を進めている。教員同士が授業を公開し合う相互参観を定期的実施し、振り返りや意見交換を通して指導力の向上を図っていく。

・「伝え合い」をテーマとした校内研究では、研究授業や協議を通して児童のつまづきや指導の工夫を共有し、教科を越えた授業改善につなげる。

・外部研修への参加を積極的に進め、得られた知見を校内で共有することで、指導法やICT活用の幅を広げていく。

・基礎学力の保障

・単元ごとの振り返りテストや家庭学習を活用し、読み・書きの基本技能を繰り返し定着させる取組を行っていく。また、学習状況に応じた個別支援を取り入れ、理解が不十分な児童への丁寧なフォローを充実していく。加えて、ICT機器を活用したドリル学習を取り入れ、児童が自分の理解状況を把握しながら主体的に学習できる環境を整備していく。

・授業では、文章の要旨をまとめる活動や段落ごとの内容理解を丁寧に確認する時間を設けていく。また、ペア学習などの対話的な学習を通して伝え合う力を育てていく。

・学習習慣の確立

・毎日の漢字・語彙の確認や音読練習を家庭学習と連携させ、学校と家庭で継続的に学習できる環境を整えていく。

・読書科の時間も活用し、文章を読み自分の考えを整理する習慣を育み、主体的に学ぶ姿勢の育成にもつなげていく。

・「基本的な生活習慣」の定着状況も低いことが明らかになった。生活習慣が整っていないと、学習に集中する力や家庭学習の習慣も身につけにくくなることから、生活面での指導も重視していく。

・AB層の育成

・AB層の児童の割合を増やしていくために、理解が十分でない児童への補習や個に応じた支援を実施していく。

・授業では段落ごとに主語と述語の関係や要旨把握、文章の要約活動を丁寧に、読解力の基礎を確実に定着させていく。

・発表や意見交換の場を設け、考えを言語化して伝え合う活動を取り入れることで、思考力や表現力を伸ばしていく。

《チャートの特徴》

今年度の学力調査の結果、国語は3.8%全国の平均正答率を下回った。基礎的な学力や知識の定着が弱い部分があると考えられる。

質問調査では、「規範意識」や「自己有用感」は全国値とほぼ同率であるが、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「国語への関心」は全国値を少し下回る結果となった。また、「基本的な生活習慣」は全国値を大きく下回る結果となった。

《家庭・地域への働きかけ》

・学力調査や個々の学習カルテを通して、児童の実態を把握し補習を行ったり、授業改善を行うと共に、家庭にも情報を提供し、連携を図る。

・アクションプランとして、自分の課題に合った自主学習に取り組む機会を設ける。

・「江戸川っ子study week」を設定して家庭でもミライシードを活用した復習への取り組みを働きかける。